

オランダの慢性疲労症候群活動および参加アンケート (CFS-APQ) の心理測定的特性

田島徹朗

西日本リハビリテーション学院

目的：慢性疲労症候群 (CFS) に対し、総括的なアンケートである簡易型健康状態調査 (SF-36) が広く使われているが、その解釈はわかりにくく、時間がかかるため、適用が低く、その有効性も疑わしい。今回の CFS-APQ は、CFS において、活動限界をモニターするための疾患に特有の評価手段とされている。本研究では、オランダの言語訳で得られるデータ結果の有効性、情報の内容の妥当性とアンケートの再調査に対する信頼性が検定された。

方法：慢性疲労を有する患者 111 人のうち 47 人が、記載されたすべての包含基準を満たした。患者には、最初、活動するのが困難になった少なくとも 5 つの行動を記載し、次に、CFS-APQ を完了するために、疼痛、疲労と能力の 3 つを visual analog scales を使用して評価するよう依頼した。また、自宅で CFS-APQ の改訂版を行い、調査者にそれを返すよう依頼した。なお、管理者バイアスを最小にするために特別の説明を与えなかった。

再調査データの分析には、intraclass 相関係数と Spearman 順位相関係数 (R) が使われた。

結果：患者の平均年齢は 36.5 歳 (SD=11.1, range=18~60) で、4.8 年 (SD=4.9, range=1.0~28.0) の平均疾患継続期間を有しており、内 39 人の患者 (83.0%) は女性であった。CFS-APQ の全体的な得点は、苦痛 (R=0.51, $P<.001$) と疲労 (R=0.50, $P<.001$) との間に相関が認められた。依頼に対する大多数の反応 (85.8%) は、CFS-APQ の内容に一致した。ICIDH β II 評価を使用して、26 の質問のうち 21 が活動に対応することがわかった。また、残りの 5 つの質問は、参加レベルを評価した。Cronbach α 係数は .94 であった。なお、総合評点の検査-再試験信頼性は、intraclass 相関係数 0.95 ($P<.001$) であった。

結論：相近妥当性が立証され、CFS-APQ は CFS 患者に有効であった。

Nijs J, et al : Psychometric properties of the Dutch Chronic Fatigue Syndrome-Activities and Participation Questionnaire (CFS-APQ). Phys Ther **83** : 444-454, 2003

顎関節病理、頸部痛と姿勢の相関

長野恵子

西日本リハビリテーション学院

この研究は顎関節病理および頸部痛と姿勢の関係を調査することを目的としている。被験者は顎関節の疼痛と頸部の疼痛を認める 15~52 歳 (平均年齢 28.50 $\pm$ 12.93) の 18 人の患者で構成され、比較される対照群は顎関節痛も頸部痛もない 20 人で構成されている。

方法として、まず被験者は全員詳細な触診、顎関節の可動域などの理学的検査を受けた。両グループは MRI にて頸部 4 方向の撮影と、下顎骨の関節可動域、頭部一肩の角度を評価した。下顎骨の可動域は他動および自動の両方で測定し、上下の第 1 門歯間距離を測った。また、頭部一肩角は、耳珠と第 7 頸椎棘突起と肩峰端にマーキングし、角測定を行った。年齢、頭部一肩角また下顎骨の自動・他動の関節可動域を比較するのに t 検定を用いた。性差の比較は χ^2 検定を用いた。

結果は、18 人の患者の 78% が片側の顎関節の疼痛を、22% が両側性に疼痛を持っていた。理学的検査所見では 50% が頸部の筋緊張亢進、30% が頸部痛、20% が顎関節の可動域制限を呈していた。頭部一肩角と下顎骨の可動域では両グループに統計格差がみられた。対象群では理学的所見は認められなかった。また年齢と性には統計的な差はみられなかった。

考察として、筋緊張の異常は頭部一肩の解剖学的な姿勢の変化を起こし、機能障害の主要な因子となる。正常姿勢に対し頭・頸体位の変化がみられる状態では、後頭下筋系の短縮や収縮が起こっており、そのためこの部位が中枢神経系の侵害受容器となり眼振や回転性目眩を起こすことがある。また、血流障害や神経障害を生じさせるような急性あるいは慢性的な姿勢異常は頭蓋顔面の疼痛を生じることもありえる。長期間にわたる頸部の不良肢位が筋の短縮や伸張を引き起こし、このことが顎口腔系の筋に影響を与えている。本研究は、頸部体位性変化が顎口腔系の筋に影響を及ぼして、顎関節機能障害病理を生じるという仮説を支持している。

Evciik D, Aksoy O : Correlation of temporomandibular joint pathologies, neck pain and postural differences. Physical therapy science **12** : 97-100, 2000